

「令和4年沖縄全戦没者追悼式における平和宣言」への県民意見の概要について

令和4年6月23日
沖縄県女性力・平和推進課

1 県民意見の募集について

沖縄県では、毎年6月23日に執り行われる沖縄全戦没者追悼式において、戦没者のみ霊を慰め、戦争体験を継承するとともに、恒久平和の実現に取り組む決意を宣言してきました。

本土復帰50周年の節目を迎えた令和4年の平和宣言においては、悲惨な地上戦を経験した沖縄県として恒久平和への決意を新たにし、平和を希求する「沖縄のこころ」を県内外にさらに発信するとともに、県民の思いを込めた宣言とするため、県民の皆様からご意見を募集することとしました。

2 募集概要及び結果

- (1) 募集期間：令和4年3月18日（金）～4月8日（金）
- (2) 募集方法：郵便、FAX、電子メール、電子申請
- (3) 募集項目：①恒久平和に対する思いや考えについて
②次世代に残したいものや伝えたい思いについて
- (4) 意見総数：33件【個人5件、団体28件（※）】
（※）沖縄県遺族連合会、沖縄県平和祈念財団、
ひめゆり平和祈念資料館、戦の語り部功労者、次世代継承者、
ちゅうちな一草の根平和貢献賞受賞者

3 県民意見の概要

(1) 恒久平和に対する思いや考えについて

ア 過去の教訓・継承として

- ・平和の尊さ、戦争の悲惨さを後世に伝える
- ・悲惨な戦争体験を風化させない
- ・戦争の悲劇を繰り返さない

イ 未来に向けての発信として

- ・ 恒久平和を希求する心
- ・ 武力以外での、解決
- ・ 命どう宝（命こそ宝）
- ・ 核兵器を無くすことが重要。すべての国が武器を放棄する
- ・ 互いに違っても認め合い尊重する心

(2) 次世代に残したいものや伝えたい思いについて

ア 過去の教訓・継承として

- ・ 沖縄戦をしっかりと学ぶ。その教訓を現在、将来に活かしていく
- ・ 私たち体験者からの平和のバトン

イ 未来に向けての発信として

- ・ ウクライナへの侵攻に強い憤りを感じる、「戦争放棄」という思いを大事に
- ・ お互いを尊重し、対話で物事を解決
- ・ 沖縄文化の継承と、若いうちに世界の文化にふれて欲しい
- ・ 「戦争は絶対にしてはいけない」という意志を持つ必要性

4 平和宣言への反映

様々な県民意見の中から、お寄せいただいた思いを踏まえ、以下のとおり令和4年の平和宣言に反映しました。

- 戦争の不条理と残酷さを身をもって体験した県民
- 貴重な自然環境や沖縄独自の文化を、未来を担う子や孫達に引き継いでいくこと
- 戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない（※ユネスコ憲章の前文）
- 平和な社会を創造するためには、国際社会が連帯し、多様性や価値観の違いを認め合い対立や分断ではなく、お互いを尊重し、対話を重ね、共に平和を追求していくこと
- 平和と命の尊さを大切にすること
- 忌まわしい戦争の記憶を風化させないために、沖縄戦の実相や教訓を次の世代に正しく伝えていくこと
- 核兵器の廃絶、戦争の放棄、恒久平和の確立
- 命どう宝 命こそ宝をいつの時代でも語り継ぐこと
- 子ども達が瞳を輝かせて、全ての人々が、幸せだと実感できる希望に満ち溢れた社会を今から未来へ築いていこう